

# 独立

ANNUAL  
DOHURITSU note

# ート

No.

# 3

# 2013

年刊

## 独立/ート 第3号

- ターニングポイント  
..... 林 敬二
- このひとに聞く
- つぶやき生の声!
- スランプ脱出法
- 留学体験記
- 独立展・あのころ  
..... 居串佳一
- 地方展の活動から



## 独立美術協会小史

### 【誕生 - 初期】(1930-1959)

1930年11月1日、清水登之(43歳)、鈴木保徳(39歳)、川口軌外(38歳)、小島善太郎(38歳)、児島善三郎(37歳)、中山嶽(37歳)、鈴木亜夫(36歳)、里見勝蔵(35歳)、高島達四郎(35歳)、林重義(34歳)、伊藤廉(32歳)、林武(32歳)、福沢一郎(32歳)、三岸好太郎(28歳)という14名の気鋭の画家たちが独立美術協会を設立し、翌年1月には東京府美術館で「第1回独立展」を開催した。初期段階で野口弥太郎、須田國太郎、小林和作、海老原喜之助、鳥海青児らが会員として迎えらる。

第1回展は3,058点、第2回展4,853点、第3回展では5,000点を超える搬入点数があったと記録されており、他の団体を超える「熱狂的な支持」を得ていたことが分かる。

この期に独立は近代史に輝く画家集団として確固たる地位を築き、「独立」は俳句の「季語」になった。

### 【中期】(1960-1984)

現在の洋画壇でも中心的な活躍を続けている会員が、この頃に新会員となって注目を集め始めた。画壇の芥川賞といわれた安井賞展には、独立所属の画家が多く入選・受賞した。その他昭和会展、安田火災美術財団奨励賞展など多くのコンクールや芸術賞で受賞してきた。また文化庁芸術家在外研修員として選出された画家も多く、活躍が続く。

### 【現在】(1985-)

独立展以外の活動では、この期も様々なコンクールで受賞したり、文化庁芸術家在外研修員に選ばれる独立所属画家の輩出が続く。また、毎年6月を中心に銀座界隈の画廊で独立展出品者の展覧会が頻繁に開催され、美術界の話題になっている。

一方独立展内部の作品には、抽象作品だけでなく具象作品にも半立体的な作品が現れたり、写実的な傾向の作品やコンピュータを利用した作品も増えて表現がより多様化していった。

独立展は、こうした新しく生まれようとする優れた才能には時を選ばず評価してきた。また「審査することは、同時に審査されること」という自覚を持って運営し、現在にいたる。

批評家・学芸員・会員によるギャラリートークも好評を博している。加えてイベント等の収益の一部を「3.11への支援」にあてる等、社会活動にも取り組んでいる。昨年は記念すべき「第80回展」を迎えた。会員136名の出品に加え、準会員と一般出品者748名(2,070点)のうち615名(653点)の作品を選別し展示。美術館入場者数は24,837名。

## 『独立ノート』第3号発刊にあたり

独立ノートが発刊される度に、画友の皆さんの日々の努力と精進が熱く伝わって来る様です。独立展の会場や審査場で皆さんの絵をつぶさに見れば、描くその人の心の中のたたずまいが自ずと伝わって来ます。本年の創作活動はいかがでしたか。新しい発見に出会ったでしょうか。時間は静止することなく刻一刻と過ぎて行きますが、絵という存在があれば、それがその人の、その人でなければ作り出せない「時」を生み出し確定してくれるに違いありません。今年も作品を拝見することを楽しみにしています。

事務所委員 絹谷幸二

### 《目次》

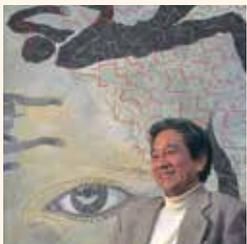
|                             |     |
|-----------------------------|-----|
| ■独立美術協会小史                   | 表紙裏 |
| ■「独立ノート」第3号発刊にあたり 絹谷幸二      | 1   |
| ■私のターニングポイント 林 敬二           | 2   |
| ■このひとに聞く(1) 佐々木里加           | 4   |
| ■このひとに聞く(2) 瀬島 匠            | 5   |
| ■つぶやき生の声!                   | 6   |
| ■スランプ脱出法                    | 8   |
| ■留学体験記 奥谷太一                 | 9   |
| ■独立展・あのあるところ vol.3 居串佳一     | 10  |
| ■地方展の活動から/北海道 独立展           | 11  |
| ■独立展からのお知らせ/葺崎大村美術館         | 12  |
| ■第81回独立展の地方展/特別展案内          | 13  |
| ■第81回独立展 イベント案内/第82回独立展公募案内 | 裏表紙 |

協力:愛知県美術館、網走市立美術館、大阪市立美術館、京都市美術館、東京都美術館  
葺崎大村美術館、福岡市美術館、北海道立近代美術館、北海道立三岸好太郎美術館  
制作:独立編集室・デザイン室  
表紙:林 敬二「開かれた月景」2012年制作 182×227.5cm 部分

# 私のターニングポイント 林 敬二

インタビュー / 山本雄三

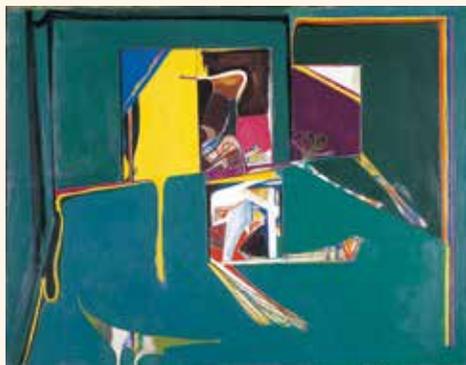
山本：「本日は、宜しくお願い致します。実は、先生とは、先日の高島屋東京店で開催されました十果会の会期中（7/3～7/9）にお話をお伺いするお約束でしたが、搬入を終えられた後、すぐに体調を崩されて入院されたと、高島屋の美術部の方にお聞きし、大変心配致しました。今現在もまだ、体調が万全ではない中、今回のインタビューをお受け頂きまして本当に有難うございました。独立ノートも今号で3号目になるのですが、その中の巻頭ページの記事【私のターニングポイント】というテーマでお話をお伺いしたいと思います。」



林：「そうだね～僕のターニングポイントって言うのはね、まず独立展に初出品したのが1959年26歳の時で、その後、1961年28歳の時に独立賞、1962年29歳で会員になったんですよ。時代背景としては、ベルリンの壁が封鎖され、ガガーリンが宇宙船によって地球を周遊し、リキテンシュタインが漫画を引用した絵画を制作し、62年には、キューバ危機、ビートルズのデビュー、モンローが自殺をした・・・等々。そういう周囲の環境や時代背景みたいなものを、当時の私は画歴の横にメモとして残したりしてね。その時々実際にあった大きな出来事というのは、直接自分が関わっていないに拘わらず、どこか皮膚から入ってくる・・・絵描きにしても物書きにしてもね。」

藝大の専攻科（現在の大学院）を修了したのが1960年で、助手として大学に残ることになって、1963年30歳の時に島村三七雄先生の壁画教室に招かれたんです。で、ちょうどその頃、日本画教室にセコンドラッジ（以下、ラッジ）という留学生在籍している、その彼がイタリアのフレスコのペテラン技術者ということが分かり、早速、島村先生がうちの壁画研究室に呼び込んだんですよ。で、私たちも、ラッジを通してイタリアのフレスコ技法というものを学んでいったね。これがまた、しっかりとした手順を踏んでいけばいかに、もの凄く時間が掛かるものでね。最初から完璧なエスキースを作って、後は部分部分で完成させていく・・・細かいとこ

ろになると、5センチ、10センチでも1日～2日掛かってしまう。すぐに乾くと言っても、非常に時間の掛かる行程でね。そのような流れを経て、フレスコ画というものが日本に定着していったわけです。私は、助手というかたちで学内に居ただけけれども、一方にイタリア留学を志していたんです。というのは、藝大4年生を終わって壁画の方へ行くのだけれど、その時はもうイタリアのアートにどっぷり惚れ込んでしまっていて、機会さえあれば早くイタリアに留学して日本脱出を図りたかった。そうじゃないと、いつまでも藝大にね・・・居ろというのは結構なことだけれども、そこでもってズルズルっていつまでもじゃないか・・・とね。同時に、独立展でやってきた自分の仕事も、もう少し大きく転換させていきたいという・・・そういう思いがあったわけだ。新しい一歩が踏み出せるんじゃないかとね。そういう予感のもとにイタリア語も猛勉強して、ラッジとも親しくなって、その延長で年一回公募しているイタリアへの政府留学を希望するんです。藝大



窓・タ 1965年 112.1 × 145.5cm

は音楽と美術の両方から一人だけを候補者として選び出すだけだけれども・・・当時は、美術よりも音楽の方が希望者が多くてね。運よく推薦されたとしても、それはあくまでも芸大の選考基準をクリアしただけで、最終的にはイタリア大使館が行うテストに合格しなければいけなかったんですよ。そんな時、藝大で教鞭を執られていた山口薫先生が色々応援してくれて、結果、幸いにも私はイタリア大使館が行うテストにパスすることができたんです。ローマには、結婚していったけれども、すぐに美術学校の近くに部屋を借りて制作を始めることになって、それが31歳の時。前以て、現地の情報なんかは、先にイタリア留学をしていた彫刻家の新宮晋さんに聞いたりしてね。ローマに行っても親しくしてもらった。その頃の独立展は、壁派が主流でね、元々抽象系の仕事を



五月雨 1989年 181.8 × 227.3cm

していた私は、それに自然と馴染んで制作をしていたんだけど、いつからか、その作風に見切りをつけたい、変わらなければいけないと思い始めて、そんな時期とイタリア留学が丁度重なったんですよ。

藝大を出た同期には工藤哲巳、中西夏之、磯部行久等々がいて、皆が優秀でね。読売新聞社の主催で行われた無審査出品制の美術展覧会『読売アンペンダン展（以下、アンパン）』が60年代のファッションや芸術に影響を及ぼして。当時の独立展には、林武、海老原喜之助、野口彌太郎という錚々たる人達が居ただけけれども、存在としては数ある公募展の中の一つにすぎなくて、その時代の精鋭作家達は皆、口癖のようにアンパン、アンパンと言っていましたね。でもって、私たちが教授を受けたのが林武先生でしょ。巨匠ですからね、学生達は皆びびっていましたよ。かと思うと、一方で猛然と林武先生に挑んでいくグループが居て。それが私の同級生だった篠原有司男などの精鋭分子で、『林教室の論争（H教室の論争）』といって、芸術新潮の記事（注1）にもなった程の出来事を起こすんですよ。それは、昭和33年実際に教室で行われた話でね。忘れもしない、その時、私の一つ二つ隣に座って話を聞いておられた林先生の手がぶるぶる震えていて。我慢できなかったんだろうね。そんな状況だったから林武先生は、同じ学年であった私に対しても、独立に出品することを余り好意的には思われなかった。その頃は、推薦状をもらわないと公募展にも容易には出せなかった時代だったけれども、山口薫先生などが氣にして勧めてくれたりしてね。まあ、実際に独立展に出品したら、いい感じで、変にいびられないで、割と早めに会員になれたんだけど。ローマに渡ってからの3年半、壁派からの決別をして、全てが新鮮にものが見えたというか、ただ単にヨーロッパ、イタ

リアに影響を受けてという訳ではなくて。私は意外日本の美術が好きだったんですよ。例えば、絵巻物。全集なんかを若い時から買ったりなんかしてね。船便で送ったよ。余り、べったリイタリア漬けにならないで、日本を忘れないようにしようと思ってたから。イタリアの古典と、日本の美術とを常に照らし合わせてね、頭の中でそうイメージすることが強いんですよ。周りが私の作品に対して、日本文化の匂いがするっていうのは、そういうことだったんだよね。もちろん、イタリアのフレッシュな色、形、非常に簡単な形の中に見える単純化された造形が、日本画の世界と部分的に重なったりしてね。で、「窓屋」「窓タベ」という作品を巻いてローマから航空便で独立展へ搬入して・・・皆、驚いていたね。窓から聞こえてくる鳥の声、ローマの花の匂い・・・そんな空気、環境が私を変えたのかな？まあ、それは冗談として（笑）。結局は、自分のやっていることを変えたい、変わりたい。その強い思い一心で日本を出て・・・日本にそのまま居たら、この変貌は出来なかっただろうね」

山本：「林敬二先生は、絵画制作に対する考え方、方向性など、ある意味、独立展にどっぷりと浸透されてこられた方だと思っただんですが、今回、色々なお話をお伺いして、そうでもなかったのかなあ・・・と」

林：「あのね、皆、反抗しながら独立に出品していたんですよ。本当に反抗したのは、針生鎮朗、松本英一郎かな。私なんかも、『お前も出品するのか・・・』って林武先生に言われたりして。まあ、いくら独立の中で威張っていてもその当時の状況においては通じなかったんだよね。中西夏之、工藤哲巳、磯部行久等がアンペンダン展を機にパーッと売り出してきていたし、少しずつ、林武先生もそれを感じていらっやっただと思う。だんだんと針生鎮朗、松本英一郎に対する当たりも柔らかくなってきたらしいから。」

山本：「そうだったのですね・・・本当に今日は意外な話ばかりで、私一人で聞かせて頂くのはもったいないほど充実した1時間でした。体調のすぐれない中、ご無理をお願いしてしまい申し訳ありませんでした。また、独立展の制作に向けて一番大切な時期にお時間をとって頂き、本当に有難うございました」

[note]



開かれた月景 2012年 182 × 227.5cm



注1：藝術新潮 昭和35年（1960）2月号  
\*（特集）芸術学校の教師と学生の悩み\*  
上記掲載文『H教室の論争』（林敬二）は、独立展のホームページで閲覧できます。  
<http://www.dokuritsuten.com/note/>

## このひとに聞く(1) 佐々木里加



- 1994 毎日新聞社主催現代日本美術展出品 (97,99,00年同展入選,98年賞候補)
- 1999 第5回「美の予感—洋画」展出品 高島屋 第2回「写実の世紀」展出品 高島屋 文化庁派遣芸術家国内研修員
- 2001 「新世紀をひらく美」展出品 高島屋
- 2002 青梅市立美術館企画個展 損保ジャパン美術財団選抜奨励展(02,03年同展出品) 独立展独立賞(06年会員推奨)
- 2005 女流画家協会展女流画家協会賞(同年委員推奨) 日本橋高島屋「SENSATION展」(07,08,10年同展出品)
- 2007 VOCA展
- 2009 文化庁主催国民文化祭「THE・女流展」 日本橋高島屋「佐々木里加展」 日本橋三越「THE・女流展」 文化庁派遣芸術家海外研修員
- 2013 日本橋三越「THE・女流展」 現在独立美術協会会員、女流画家協会委員

### 1. 美術を志したきっかけは?

幼い頃から独りで絵を描いたり粘土で何かを作るのが好きな子供ではありましたが、同じく幼少期から「人は身体のどこでものを思ったり考えたりしているのか」ということを考えていてそれが「脳」にあるのではと思っている子供でしたので、「美術」を志したというよりも「脳」というモチーフをつかって目に見えるかたちに何かを作り上げて提示したいということ、その時期から考えていました。

「筆を使ってなにかを描くことが楽しい」という入口から「美術」の世界に入ったのではなく、私の場合、あくまでも「脳」というものに魅せられて、その対象・モチーフに対する興味から入っていったといえます。ですから素材・手法もその時々脳内ヴィジョンに最も合致したものを選んでいきます。

### 2. 独立展に出品した理由、メリットは?

安井賞展、日本秀作美術展をはじめ、小中学生時に見ていた美術展で「独立美術協会」の名前をよく目にしていたのと、1994年頃、文化庁の芸術家研修制度の国内版募集要項を見て、応募用紙の所属団体記入欄の記入方法説明文に「(例)独立美術協会」と記載してあったので、これはお国が奨める美術団体なのだ、と思ったのが出品するきっかけです。その甲斐



中板神経 電脳曼荼羅 162×162cm 1994年

あってか、文化庁の国内研修と海外研修を修了できました。工作上、美大の学生さん達に「卒業後はどうやって絵を続けていけば良いですか?」とよく聞かれますが、個展はお金もかかるし年一、二回の公募団体展をライフサイクルとすれば

よいのでは?と勤めています。一人で続けていくのは金銭的にも精神的にも難しいと思います。美大卒業後に制作をやめていく人がほとんどですね。

### 3. 美術活動を始めてから現在までどんな変化がありましたか? (大学卒業後、制作の変化、経済面など)

想定外だったことは、作品のために家を借りることになったことでしょうか。作品を捨てないで、100号以上が100枚以上あります。どなたか安く良い場所を教えてください。

### 4. 影響された作品、作家はいますか?

今春から、東京大学の大学院研究生として入学し、臨床哲学から派生して認知心理、脳科学を学んでいますが、もともとは幼少期にフロイトの「精神分析入門」を読んだことがきっかけだったと思います。その後も脳と心理学関係の書物をはじめ「認知科学辞典」等の書物から得たものは多いです。哲学というと難しく聞かれますが、よりよく生きるにはどうしたらよいかを考えることなので、人生を豊かにするために美術をはじめとした文化を取り入れることもすべて哲学とつながっています。

### 5. 将来像、今後の希望等を聞かせて下さい。

旧来の「美術」や「絵画」の枠を超えた作例が、若い学生さんたちの作品の中にも多く見られる時代になってきました。彼らの美術に対する感覚や価値観は驚くほど変化してきています。同時に、定年退職後に美大に入学されるというケースもよく見られます。いずれにせよ、己れの人生を充実させるひとつの媒体と考えればよいと思います。私も人生を充実させるために、仕事をしながら研究を進めていますが、この世界はこうでなければならないといった囲いがあることごとの進化の邪魔をすることは往々にしてあるので、今後も私なりにさまざまな垣根を取り払って生きていきたいと考えています。何かに挑戦しようかどうかと迷っている人がいたら、とりあえずチャレンジしてみることをお勧めします。すべてのきっかけはチャレンジすることからです。チャレンジすることから世界は想像以上に広がります。

取材:花澤洋太 [note]



HAYPER BRAIN TECHNOSCAPE 227.5 × 182cm 2012年

## このひとに聞く(2) 瀬島 匠



- 1962 広島県に生まれる
- 1985 第53回独立展初出品 (以降毎年)
- 1989 武蔵野美術大学造形学部油絵科卒業
- 1991 個展/ときわ画廊 (92、94)
- 1992 第60回独立展 田近憲三賞受賞
- 1994 第62回独立展 野口賞受賞 武蔵野美術大学パブリック受賞
- 1995 第63回独立展 安田火災美術財団奨励賞
- 1997 安田火災美術財団選抜奨励展
- 1998 第66回独立展 高島賞受賞
- 1999 第67回独立展 奨励賞受賞 (01、02)
- 2000 個展/モンマルトル洗濯船、パリ
- 2003 第71回独立展 独立賞受賞
- 2004 第72回独立展 会員推奨
- 2011 第29回上野の森美術館大賞展大賞受賞
- 2013 個展/上野の森美術館
- その他 国内外で個展、グループ展多数

### 1. 美術を志したきっかけは? 影響された作品作家はいますか?

私は瀬戸内海の因島で生まれ、自分の祖父も父も造船所で働いていました。父はいつの間にか造船所通いをやめて、島のあちこちで絵画教室を開くようになりました。そのいきさつは、どうしても絵を習いたく島に唯一あった岡崎勇次先生の画塾に通い、日展の入選を繰り返すなか画家としての決意を固めたみたいです。小学生の頃の思い出は、休みの日や学校が早く終わった時には、父の原付自転車に



Two Years ago in Kyoto 145.5 × 112cm 1985年

股がり因島やその近隣の島の絵画教室まで乗せて行ってもらい、教室の手伝いが終わった後の帰り道がたのしみで、広い海岸にぼつんと建つ真っ黒い塩田の櫓や黒こげになった巨大な木製の廃船を時々目にしながら、海岸通の砂利道を父と一緒に帰る事でした。自分は七人兄弟の長男だった事もあって、生活はかなり厳しいと思いましたが、スケッチブックと絵の具セットだけは父が惜しまず格格的な物を揃えてくれました。一番近く的美術館は倉敷の大原美術館で、小学校の頃からよく連れて行ってもらいました。青木繁の『男の顔』が怖くて、一度見ると頭から離れなくて、それが高校生になって、その怖くてたまらなかった青木繁の作品の虜になってしまい、『海の幸』や『自画像』を何度も模写しました。特に『海の幸』は原寸より大きく拡大して、当時バックには金粉が塗られていたと知り真鍮の粉を金粉に見立て、夜、白熱電球で照らしたときの驚きは今ははっきり覚えています。

### 2. 独立展に出品した理由、メリットは?

公募展は光風会や日展以外は知らなかったで、大学一年の時に頑張っって光風会に出品して親子で入選する事が出来、父は大変喜んでくれました。しかし、東京の先生から「息子さんは、もっと違う団体で自由にやらせてあげなさい。」と言う電話があって、父は自分で他の団体を探そう!と言うてきました。それから大学の講評で、初めに入った先生から「上手くいつているから筆を置きなさい」と言う助言を頂いたので完成にしたのですが、次に入った先生からは全く逆に「こんなつまらない絵はない」と言う講評を頂きました。この先生の団体に出品すれば面白いのではないかと思う気持ちで、写真に乗せている80号の作品を独立展に出品しました。

### 3. 美術活動を始めてから現在までどのような変化がありましたか?

また将来像、今後の希望等を聞かせてください。

大学卒業後は助手として大学に残り、とにかくその時は自分でもいつ寝ているのか?と言うくらい作品を作りました。毎年夏休みに行く古美術研究旅行の特別拝観では、真夏の臍臓とした中ですら等伯の老松図を目の前にした時、飛び散るような筆さばきが松の形のまま鶴に変身し、今すぐこの襖から飛び出しそうな、強烈で何とも言えない不思議な現象を経験しました。助手の任期を終えて、大学から一年間のフランス滞在のチャンス頂きました。しかし滞在の一年間はあっという間に過ぎ、そんな中、妻が「ペンキ屋匠、出来る事は何でも」と言う広告を出したとたん、内装工事、水道工事、電気工事、運転手、広告看板等の仕事 came。一番大変だったのが、日本から来た多くの留学生のアパートで、シャワーはほとんどでない、屋根裏部屋で水圧が足りなくてその上、下水は流れにくい。逆にトイレの便器交換は、一番簡単な仕事の部類です。時々楽しいのが、パリコレの運転手でした。高級ベンツのVIPの運転手たちと競い合い、パリ中の会場移動に裏道を通り、次の会場のできるだけ良い場所に止める。そんな仕事もやりましたが、日本に帰った今、それらがどこかに活かされていると思います。とにかくその頃は生きる事が仕事でした。将来像は日々動き回っているなかで、理想も現実も直面している物をすべて自分の目でしっかり見て、ダイナミックに思い切って描き続けていきたいです。

取材:花澤洋太 [note]



RUNNER2011BIGSHIP 194 × 162cm 2011年





# それぞれのスランプ脱出法!?

絵を描く上で誰もが陥る不調やスランプ。それを乗り越えるために各自様々な工夫や努力をしているようです。そんなスランプ脱出法を集めてみました。参考にして下さい。



## 精神的

スランプはエネルギーの枯渇。絵を離れて食べたい物を食べ、買いたい物を買う。満タンにチャージして再挑戦!

(会員)

絵の直接の問題ではなく、他のもくろみがあるときに行き詰まりやすい。振り払って正面から絵と向き合う。

(会員)

絵を描くこととデザインの仕事と似た部分が多くあるので、切り替えながら両方の問題点を解決していく。

(会員)

そもそもスランプなどというものはよほどの大家が言うこと! ひたすら努力すべし! まあ後で振り返ると絵以外のことで充足が過ぎると絵が甘くなっていることはあるようだ。

(会員)

絵の道具を全部きれいに片付けます!一旦スタートの気分に戻ります。

(会友)

エステに行きま〜す。凝り固まった物を全部ほくしま〜す。(会員)

行き詰まると絵の前に寝転んで思いつき手足をバタバタさせる! 妙にすっきりしますよ!

(会友)

掃除、草取り、カビ取りと家事を徹底的にやる! 目に見える確実な成果を上げると充実した気持ちになり自信が生まれる。

(準会員)

一枚の絵が完成するまでに3回はもうダメかと思う。そのうちそれが大事なプロセスであると思うようになった。

(会員)

いつでも泥沼! 光が見えるまで同じ球を投げ続ける! スランプかどうかは後からしか解らない。

(準会員)

描きたくなくなるまで描かない!

描きたい気持ちが一番大事!

(会員)

旅行に行く! アトリエにこもっていると絵がどうどうめくりになるので、負のサイクルから抜け出すために旅に出て、開放感をいっぱい得てまた絵に向かう。

(会員)

## 日常

## 非日常

## 肉体的

取材: 高澤哲明

## 留学体験記 独立美術協会会員 奥谷太一

■渡航先 フランス/パリ



皆様ご無沙汰しております。私は昨年の9月から1年間、文化庁新進芸術家海外研修員としてパリに滞在しました。昨年の独立展 80 回という大きな節目に参加できず残念でした。

私がパリに来た理由として、洋画を描いている者であれば発祥の西洋に赴き、その環境下で過ごすことが必要だと前から思っていたことが上げられます。そう感じた一つの理由は旅行で初めてベルギー、フランスに行った時に風景を見た時のことでした。日本と違い湿度の低いこの地では遠くの風景まで形を見渡す事が出来て、光も強く面がはっきりしている。そして石造りの重厚な街並みである。そのような環境下で表現しようとするから油絵具が生まれ、技術が発達してきたのだと考えたのです。私たちの日本では湿度が高く遠くが霞んで見える。その場を表現するには水性が適していると先人の方々は考え、墨、岩絵具が用いられた。環境の違うところでそれぞれが表現をしようとした時、お互いそれぞれに適した材料を使っていたの仮説を持つに至りました。今ではそのようなことは関係なくそれぞれが好きな材料を使用していますが、油絵具を使う表現者としてそのようなことを体感することは即効性がなくとも必ず何かしら後で大きな意味を持つことになると考えていました。そんな時にパオロ・ウッチェロについて本を出している教授がパリのエコール・デ・ボザールにいるという話を聞きました。ウッチェロは昨年の独立ノートにも書いてありますが父(奥谷博)が模写をして転機になった作家です。私が絵の



『サン・ロマーノの戦い』パオロ・ウッチェロ作 模写

道に進んだ頃、その話を聞いていたこともあって興味を持ち、その教授の授業を受けてみたいと思いました。自分の作品ア

イル、志望理由などを送り、受け入れてもらうことができ、結果今回の研修を行うことができました。

留学に当たって障害になるのはビザの取得だと思います。フランスは度々申請内容が変わり必要書類も同様です。大使館のホームページに必要書類の一覧が書いてありますが、有利に運ぶような書類は記載されていなくても持って行った方がいいこともあります。逆に余計なものを持ってきたが故にもっといろいろ用意しなくてはいけなくなり面倒なことになることも。日本と違いその書類をチェックする人の裁量によって審査も変わってくるようです。書類文化でするので必要なものが多く、揃えるのに一苦労しました。このことを通してフランスという国について少し知ることになりました。書類提出する日はホームページで予約をとるのですが早めに予約しないと間に合わなくなります。一日の定員が決まっているようで、私の時は一番早い日で1ヶ月ちょっと先でした。出国までに間に合わなければならないよう注意が必要です。

パリでは芸術を身近に感じました。生活の一部になっているのか、芸術に対する意識が日本の平均より高いのではないのでしょうか。小さい頃から美術館などに行き、自然に芸術を捉えているのかもかもしれません。日本はパリと比べゴミなど落ちていてなくてきれいで、何をしてもとても便利ですが、何か気持ちが昂りません。いろいろな人種、文化があり服装も人それぞれ。そのような中に居たことについて今まで当たり前のように生活していた日本が違って見えてきます。これからもそのようなことをいろいろ気付かされるのでしょう。インターネットの普及、旅行などで気軽に海外にいけますし、日本にいて情報は手軽に手に入るようになり差異は昔より少なくなってきているかもしれません。ただ実際に自分で現地足を運び生活することでしか得られない言葉にできないものが今でも沢山あると思います。

長期間、海外に出るとなると仕事、家族など自分の意思だけでは決められないこともあると思います。もしタイミングがあうことがあれば積極的に行動して、色々な給付制度もありますので調べて挑戦してもらえたらと思います。まだ帰ってきて間もないですが、今回の研修は一生の財産になった貴重な時間だったと少ししみじみ感じています。

[note]



ルーブル美術館にてジェームス・プロデ教授(エコール・デ・ボザール教授)の授業風景

# 独立展・あのこと vol.3

～戦争前後のころ「マドロスパイプと貨物船」居串佳一～

塚本 聡

かつて「北の果てから出展しているすごいヤツがいる」と噂され、若くして日本洋画壇にその名を刻んだ画家がいた。彼はオホーツクの郷土を愛し、その空気や土の持つ香りが立ち上がってくるような独自の世界を探究した。



居串佳一（いくし・かいち 1911～1955）北海道、現・北見市生まれ。旧姓水野。1932年、第2回独立展に初入選し、1935年上京。1936年第6回展で海南賞、翌年会友、1941年独立展会員。『弓』をイタリア政府が買上。大胆なフォーヴ的タッチの初期、北方民族を描いた中期、アイヌの英雄叙事詩ユーカラの世界を描いた晩年に大別される。

■水野野一（よしかず）は、愛知県から北海道へ屯田兵としてやって来た父徳三郎の次男として生まれた。長男亡き後、後継ぎとして名前に「一」の字を用い命名された。

■旧制中学（現・網走南ヶ丘高等学校）では、美術部に入学し、いつもスケッチブックを携えていた。呉服商・居串栄治が、彼の画才に感心して、画材全般やアトリエなどの援助を始める。在学中、北海道美術協会展（道展）に初入選する。

■《朝学校へ上がろうとして街で「お前は昨夜中学が焼けたのを知らんのか。」と何処かの小母さんに注意され、びっくり赤面した吾気なものであった》と、『白洋画会時代』の文中で、中学1年終了時のエピソードを紹介している。

■20歳で独立展に初入選。2年後、菊地精二（注1）、岡部文之助（注2）ら10人で、北海道独立美術作家協会を設立するが、指導的立場の三岸好太郎の急逝で、第4回展で自然解消。この頃、独立展会員の清水登之に私淑する。

■'34年道展会員となる。次年、24歳で上京し、大森に下宿。画材会社で働き、社長からアトリエを提供される。夜間にクロッキーを学び、帰りは必ずピヤホールで喉を潤した。

■ある日、高田馬場で北海道独立と九州独立の野球試合があり、佳一は投手となる。そして、彼の速球が勝因となった。第5回独立展に『採氷風景』を出品する。

■25歳で、海南賞を受賞。翌年には森芳雄と共に会友になる。居串栄治の養女直子と結婚して養子となり、画名も居串佳一を用いる。この頃、中学生の松樹路人（60～独立展会員）は、佳一の『水上漁業』を網走で見て画家を志す。

■佳一30歳の年、『北方に生く』で、斎藤長三らと独立展会員になる。この第11回独立展には、17歳直前の藤城清治（彫絵作家）も入選している。杉並区和泉町にアトリエ購入。



『水上漁業』 1936年 130.3 × 162.1cm 第6回独立展海南賞受賞、網走市立美術館蔵



『静夜』 1937年 188.7 × 92.7cm（部分） 第7回独立展出品、網走市立美術館蔵



『北方に生く』 1941年 178.0 × 223.5cm 第11回独立展出品 網走市立美術館蔵

■'42年、従軍画家として中国東北部へ向かう。従軍後に日本から妻を呼んで、奉天、ハルビンなどを二人で周り、1ヶ月間スケッチ旅行をした。'44年にも、千島へ5ヶ月間従軍。

■敗戦の年の11月、東京から網走に疎開。ここで、師である清水登之の死を知る。全道美術協会（全道展）の創立会員となる。町の有志の援助を得て、網走にアトリエを建設。

■5年の網走滞後、再度上京。杉並区上高井戸にアトリエ新築。中学の後輩で、独立展初入選の松樹と会場で初めて会い、夜は杯をあげ喜んだ。独立展会員の中山巖を目標に模索する。'54年、貨物船での渡仏を考え、準備を開始。

■'55年8月、独立の札幌移動展開催準備で札幌へ行き、渡仏資金準備のためもあり、釧路公会堂で個展開催。所用で札幌滞在中、風邪が悪化し肺炎と脳膜炎を併発。10月5日、外遊も夢のまま、妻と子供3人を残して、44歳で逝去。

■札幌での葬儀後、東京でも葬儀を行う。独立展メンバーの多くが、上野駅で彼の遺骨を迎えた。祭壇には、マドロスパイプを固く握りしめている遺影が飾られた。10月9日から東京で開催の第23回独立展に、5点が遺作特陳された。

■'57年、東京国立近代美術館に『採氷風景』が収蔵され、'72年遺作38点が寄贈され網走市立美術館が誕生した。

[note]



『観』 1953年 178.5 × 224.0cm 第21回独立展出品 網走市立美術館蔵

### 【主な参考文献】

- オホーツク・魂の還流 居串佳一展 展覧会図録 1995年 北海道立近代美術館
- 居串佳一～オホーツクにこんな画家がいた～展覧会図録 2011年 網走市立美術館
- 居串佳一 オホーツクへ還る 地家久二著 2000年 北海道新聞社

注1 菊地精二:札幌市生。'40年独立展会員。多摩美術大学教授。73年死去(65歳)。  
注2 岡部文之助:札幌市生。現・芸大卒。'48年、独立展会員。'56年死去(47歳)。

# 地方展の活動から

## ★北海道独立展はいつも記念展★

輪島進一

### 第80回記念独立展北海道展 2013.4.3(水)～14(日)の報告

展覧会前日は展示作業。北海道独立事務局長・木村富秋会員の綿密に作成された配置計画、函館から駆けつけた相田幸男会員による適切な指示、広い全道から集結し疲れも見せない出品者の和やかに進むスムーズな連携作業。出品者のほとんどは全道展関係者である。気心も知れ作業も手慣れたもの。予定よりも遙かに早く終了し、準備は完璧。祭はすでに始まっていた。早くも会員に自作の感想を求める出品者。会員の作品をなめるように観察したり、長く話し込む準会員のグループ。本展の陳列風景そのものである。これから始まる2週間を思うと、胸が高まりワクワクしてくる。何しろ5年ぶりの開催である。ここ北海道の開催は5年おき、つまりそれは常に周年記念展ということである。高揚感も尋常ではない。そうして飲み会へ直行。陳列作業の慰勞を兼ね明日からの活況を祈り乾杯した。



第80回記念独立展北海道展 開会式

さて翌4月3日はオープニング。北海道立近代美術館館長、北海道新聞取締役事業局長、評論家の吉田豪介氏、相田会員、竹岡羊子会員による挨拶、テープカットと続き、ギャラリートークが始まった。会員作品担当は相田・竹岡・高橋伸会員による息の合った絶妙なトーク。時に笑いを誘う各人のエピソード等を交えながら、一枚一枚じっくり解説。会員の作品を本展でこれだけ丁寧に解説することはないのではなかったか。凝縮した内容を参加者は奥深い絵画の世界へ誘い込まれ、独立のすばらしさを再認識された方も多かったのではないかと。一方、大地康雄・木村富秋・高橋正敏会員は、一般出品者の講習会。今後の自分の表現は如何にあるべきかを厳しく問われる場となった。

### …気骨ある在野精神、北の大地にこそ…

上述したが、道内の独立展出品者はそのほとんどが全道展出品者でもある。本州ではそれぞれ県ごとに「○○独立」という会があるが、北海道は全道展がその役割を果たしている。毎年6月に行われ、今年で68回を迎えたこの伝統ある団体の主軸の会員のほ



ギャラリートーク



オープニングパーティ



展示作業風景

とどが独立展の会員・準会員であり、時に激論を交わす審査会や講習会が本展同様執り行われる。それはまさに独立本展への前哨戦であり研修の場だ。号数の制限が無く130号、150号台の作品が展示され、その会場は独立本展には及ばないが、東京で行われる様々な公募展に匹敵する規模。出品者はそこで鍛えられるのだ。波田浩司、宮地明人準会員も全道展の若手会員であり、さらに若い世代の出品者呼び込み、やがて独立本展へと出品していく構図がそこに生まれる。



講習会

「北海道独立」の歴史は古く、三岸好太郎が指導的立場に関わった戦前の北海道独立美術作家協会があったが、その精神は戦後になって全道展に引き継がれている。本展で活躍した菊池精二、居串佳一、松島正幸、岡部文之助、柄内忠男、砂田友治、神田日勝らはすべて全道展会員である。東京から遠く離れた地だからこそ、その在野・反骨精神は筋金入りであり、脈々と現代に引き継がれている。

さてその夜は、盛大な記念パーティが全日空ホテルで開催。来賓や出品者、合計82名参加し、木村由紀子準会員のウイットに富んだ司会のもと、道内の美術館関係者や芸芸員、批評家や画廊関係者と交流を持った。遠く十勝からも神田日勝美術館の菅館長がお出でくださったり、関東の会員も飛び入り参加されたりと、多くの方々から祝福をいただいた。最後に会員、準会員の順に壇上上がり、ひとりひとり今後の抱負を参加者に披露。

また会期中、市内の画廊では高橋伸会員の個展、そしてその教え子らの独立展の若手出品者が個展を繰り広げ、隣接する三岸好太郎美術館ではこの80周年展に連動して特別展が開かれ（詳細は後述）、また十勝の神田日勝美術館では、主に東京在住の若手の独立展会員や準会員を中心に「独立美術の新しい潮流～錨をあげて～」展が開かれるなど、今年の4月から6月に掛けてはまさに北海道の美術シーンは独立一色となった。

### 独立最年少創会員～北海道立三岸好太郎美術館の紹介

移動展の行われる4月初旬の札幌はまだ寒い時期である。特に今年は春のおとずれが遅く、所々に残雪の塊が目立つ。北海道独立展の開催されている近代美術館に隣接する、約3万㎡という広大な敷地の知事公館の構内の一部は環境保護指定区となっている小公園であり、様々な木々や植物が群生している。その緑の中に白く瀟洒（しょうしゃ）な建築物、三岸好太郎美術館がある。個人美術館としては長い歴史があり、今から46年前の1967年、北海道立美術館（三岸好太郎記念室）として開館した。さらに1983年、三岸が思い描いたモダンなアトリエのイメージを随所に取り入れ、外光も差し込むユニークな構造の新館としてこの地に建てられたものだ。

オープニングの興奮が覚めやらぬ3日後、この美術館で特別展「三岸好太郎と北海道の独立展の作家たち」（2013.4.6～6.23）が開

催され、学芸員の若名直子氏を表敬訪問した。実はこの展覧会は、ここ数年掛けて若名さんが着々と進めてきた企画展であった。三岸好太郎と独立で活躍した北海道ゆかりの物語作家（前述の全道展会員物語作家の他に、小山昇、小川マリ、北川豊、李田たけを、国松登、山本菊造）の作品を展示し、独立展の存在が今日の道内の美術にかけがえのない豊かな成果をもたらしてきたことをふり返る内容で、移動展と連動して北海道独立の過去と現在の輝きを示す形となった。若名さんはまた今回の移動展の前に北海道新聞紙上にも数回に渡って特集を組んでくれた。その冒頭「独立展が第80回を迎えている。独立美術協会は分野を洋画に特化し、多くの有力作家を輩出。日本の昭和以降の洋画史そのものを形づけてきた。現在も美術界で大きな影響力、存在感を示す…」。

また独立展創立メンバーに迎えられた三岸の感動と湧き上がる熱情を綴った詩を紹介。「…ドラが鳴ってスクリューは急展開。グングン前進。前進、前進…。この巨大な行き先を持たない黄色い鉄鋼船は何処まで進むか。進め、進め…。独立のシンボルカラーとなった黄色と黒のきっかりとされる詩の一節だ。

会期中、故砂田友治会員の次女でピアニストの眞理子さんら、北海道出身の若手演奏家による多くのミニリサイタルも展覧会場で開かれた。三岸の代表作「オーケストラ」を背にしての演奏会はまた格別。その他、三岸や独立展が北海道にもたらした大きな成果をテーマとしたセミナーが開かれたり、ユニークなイベントとして、三岸の描いた作品のモチーフを模したオリジナルなチョコレートが販売したりと、盛りだくさんの内容であった。 [note]



三岸好太郎美術館「三岸と北海道独立の仲間たち展」

三岸好太郎のデスマスク

三岸好太郎作品展示風景

独立で活躍した北海道ゆかりの物語作家の展示

三岸作品を模したチョコレート

館内でのピアノ演奏会

## 第81回独立展の地方展 / 特別展案内 (会期等変更もございます。詳細はHPでご確認ください。)

### 大阪展

2013年11月12日(火)～11月17日(日)  
大阪市立美術館/天王寺区茶臼山1-82



### 福岡展

2014年4月1日(火)～4月6日(日)  
福岡市美術館/中央区大濠公園1-6



### 京都展

2013年11月28日(木)～12月8日(日)  
京都市美術館/左京区岡崎円勝寺町124



### 独立春季選抜展

2014年4月1日(火)～4月6日(日)  
東京都美術館/台東区上野公園8-36



### 名古屋展

2014年3月18日(火)～3月23日(日)  
愛知県美術館/名古屋市中区東桜1-13-2



### 【編集後記】

昔は夏といえば『日射病』という言葉が聞かれた。それが最近では『熱中症』という単語に置き換わったと思っていたら、日射病や熱射病は熱中症の中に含まれるということらしい。今年の夏は、35度を超す猛暑日が続く日本列島であった。高知の四万十市では41度を記録し、北海道でも30度を超す真夏日となった所が多くあった。さて、独立ノート第3号は如何だったでしょうか。夏が過ぎても「第81回独立展」と「独立ノート」は、熱く燃えています。これからも年々熱く…。こちらの『熱さ』は良いですね。

### 【独立編集室】

五十里雅子 / 大泉佳広 / 高澤哲明 / 高橋雅史 / 塚本 聡  
花澤洋太 / 松村浩之 / 山本雄三 / 輪島進一

### 【独立デザイン室】

大久保宏美 / 大場再生 / 奥谷太一 / 金井訓志 / 中島 明  
浜松繁雄 / 早矢仕素子 / 廣田政生

[note]

## 独立展からの おしらせ



独立美術協会の第80回を記念して3回に渡って「自画像」「山」「華」をテーマに制作展示された『輝け・独立美術』の共同作品3点が、葦崎大村美術館に収蔵されることとなりました。葦崎大村美術館館長の大村智博士は、美術に造詣が深く絵画の蒐集家としても知られており、「優れた美術品というものは、本来は個人だけで楽しむものではなく、人類全ての共有財産である」という思いから、2007年、郷里の山梨県葦崎市に女流画家の作品を常設する葦崎大村美術館を創設し、2008年、葦崎市に寄贈しました。大村博士は、ノーベル賞に最も近い研究者の一人といわれており、昨年度の文化功労者に選ばれました。『2億人を熱帯病から守った化学者』でも知られています。

大村 智 (日本学士院会員・北里大学特別栄誉教授・学校法人女子美術大学理事長)

山梨県葦崎市出身、山梨大学文学部卒業、東京理科大学大学院理学研究科修士課程終了、山梨大学文部教員助手、北里大学薬学部教授を経て1990年より(社)北里研究所所長、2005年より米国ウエスレーン大学マックス・ティシュラー教授、2007年より女子美術大学理事長を兼務している。抗生物質など微生物の生産する天然有機化合物の研究で国際的に高く評価されている。発見した470種余の化合物の基礎並びに応用研究を推進し、医学、薬学、生化学、化学など、関連分野の発展に多大な貢献をすと共に、人類の健康と福祉の向上に国際的に貢献をしている。文化功労者。



**Nira Art Museum**  
**葦崎大村美術館**

〒407-0043  
山梨県葦崎市神山町鍋山1830-1  
TEL/FAX : 0551-23-7775  
http://www.nirasakiomura-artmuseum.com



電車でJR中央本線「葦崎」駅からタクシー約5分(2.8km)  
バスで「葦崎」駅から上野井行きバス(約10分)「葦崎大村美術館前」バス停下車徒歩3分  
お車で中央自動車道「葦崎」ICから10分(約4km)(武田乃御白山温泉に隣接)

# 第81回独立展 イベント案内

(2013年10月16日～28日)

| 日   | 時                   | 内 容   | 場 所                                      |
|-----|---------------------|---|--|
| 16水 | 14:00               | 独立美術協会会員による批評会  | 独立展会場<br>2階、3階それぞれ<br>それぞれの展示室           |
|     | 18:00               | 表彰式・懇親会<br>(受付：独立展会場1階にて14:00～16:00, 東京會館にて17:00～)          | 東京會館<br>千代田区丸の内3-2-1<br>TEL.03-3215-2111 |
| 18金 | 18:20<br> <br>19:20 | ギャラリーコンサート (1)<br>吉武大地 (バリトン)、小林ちから (ピアニスト)                 | 独立展会場<br>1階<br>展示第3室                     |
|     | 14:00<br> <br>16:00 | パネルトーク (1) テーマ「アートの実命・役割」<br>寺島 讓 (進行)、林 敬二、馬越陽子、金森良泰、瀬川富紀男 | 独立展会場<br>1階<br>展示第2室                     |
| 20日 | 14:00               | ギャラリートーク (1)<br>石井武夫、大場再生、小林 正、山本雄三、大久保宏美                   | 独立展会場<br>1階<br>展示第2室集合                   |
| 25金 | 18:20<br> <br>19:20 | ギャラリーコンサート (2)<br>蛇腹姉妹 (じゃばらしまい/アコーディオン・デュオ)                | 独立展会場<br>1階<br>展示第3室                     |
|     | 14:00<br> <br>16:00 | パネルトーク (2) テーマ「アートの力」<br>絹谷幸二 (進行)、奥谷 博、福島瑞穂、乙丸哲延、木津文哉      | 独立展会場<br>1階<br>展示第2室                     |
| 27日 | 14:00               | ギャラリートーク (2)<br>湯澤 宏、金井訓志、多見谷恭子、福満正志郎、権藤信隆                  | 独立展会場<br>1階<br>展示第2室集合                   |

※変更の場合もございます。詳細は、独立展のホームページが会場係員にご確認ください。

## 82nd 独立で輝いてみませんか？

# 独立展

2014/10/15(水)-27(月)

国立新美術館

搬入日:10月2日(木)・3日(金)

詳しくは、独立展のホームページまで！

<http://www.dokuritsuten.com>



## 独立ノート第3号

発行日 / 2013年10月1日

発行者 / 独立美術協会

〒141-0031

東京都品川区西五反田2-13-8-507

Tel. 03-3490-5881

Fax. 03-6420-0026

E-mail. dokuritsu@ceres.ocn.ne.jp

URL. <http://www.dokuritsuten.com>

印刷 / 朝日印刷工業株式会社